

# 実践のまとめ（第5学年 道徳科）

授業日 令和4年10月14日第5校時  
見附市立見附小学校 教諭 瀬下 圭太郎

## 1 研究テーマ

### 「自分」と「教材」との往還で深い学びを生む

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

文部科学省は道徳科における深い学びの鍵となる「見方・考え方」を「様々な事象を、道徳的な諸価値を基に、自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること」と定義している。これは、道徳科の目標と同義と言える。つまり、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を確実に行っていくことが、子どもの深い学びにつながっていくことになる。

授業中の子どもの姿を振り返ってみると、答えが一つではない道徳的な問題に対して自分の考えをもつ場面、あるいは終末の自分の生き方を考える場面で「自分は、こうする」「自分はこう考える」と納得解をもつ際に、具体的な行動を考えることができない子どもがいる。これは、“自己を見つめる”“自己の生き方について考えを深める”部分に課題があると言えるだろう。原因として、教科書教材の内容が自分事になっていないことや、教材の理解が個々に違うために対話が深まらないこと等が考えられる。

そこで本研究では、子どもの思考を「自分（経験やこれまでの自分の道徳的諸価値）」と「教材」で行き来させる授業構成により、子どもが深く学ぶ姿を具現したいと考えた。本時で扱う内容に関連した道徳事前アンケートをとり、アンケート結果を展開の中で用いることによってこれまでの自分と今の自分とを対比させたり、多様な意見に触れることによって考えの幅を広げたりして、納得解をもてるようにする。また、子どもの意識から問いをつくることや、対話の時間を確保するために、ICTを使って、教科書教材の内容把握の効率化を図る。このことにより、教材の内容を自分事として捉え、個で考える場面や仲間との対話を経て、これからの生き方について納得解をもてるようにしていきたい。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① 主題に関わる事前アンケート

本教材を読む前に、主に友情に関わる経験を記述するためのアンケートをとる。教材の内容に入らないうちに事前アンケートをとることで、授業前の本主題に対する子どもの道徳的価値を把握することができる。この結果を授業の中で自分の経験を想起させるために提示する。このことにより、教材と自分の経験を往還させ、道徳的な問題に深く自我関与させることをねらう。

#### ② 教材の内容把握、補助資料の提示のためのICT活用

教科書教材の付属DVD資料の「あらすじ」の機能を使い、教室内のモニターに映し、登場人物や教材文の状況把握を効率的に行う。このことにより、子ども一人一人の状況把握のずれをなくすことや本時で考えさせたい道徳的な問題への解決の時間確保をねらう。

③ 今後の自分の生き方を表す「これからの自分」の記述

本時終末に、「これからの自分」を考える時間を確保し、本時の学びを経て、今後の生き方について自己内対話させる。このことにより、本時の学びを今後の具体的な行動に結び付けて考える姿を期待する。

**(3) 研究テーマにかかわる評価**

- ・ワークシートへの記述（◎を設定した後の自分の考えの記述内容と「これからの自分」の欄への記述内容）

**3 指導計画**

**(1) 主題名**

友情を深めるには（内容項目B-10 友情，信頼）

**(2) 教材名**

「ドッジボール対決」（道徳 5 きみがいちばんひかるとき 光村図書）

**(3) 主題設定の理由**

① ねらいとする道徳的価値

内容項目B-10「友情，信頼」は、友達関係における基本とすべきことであり、友達との間に信頼と切磋琢磨の精神をもつことに関する内容項目である。よりよい友達関係をつくるには、男女問わず互いを認め合い、理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。

高学年での段階では、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとしたり、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団をつくったりする。そのため、疎外されたように感じたり、友達関係で悩んだりすることが今まで以上に見られるようになる。友達同士の相互の信頼の下に、協力して学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合うような、真の友情を育てるとともに、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていくようにすることが求められる。

② 教材と児童（生徒）

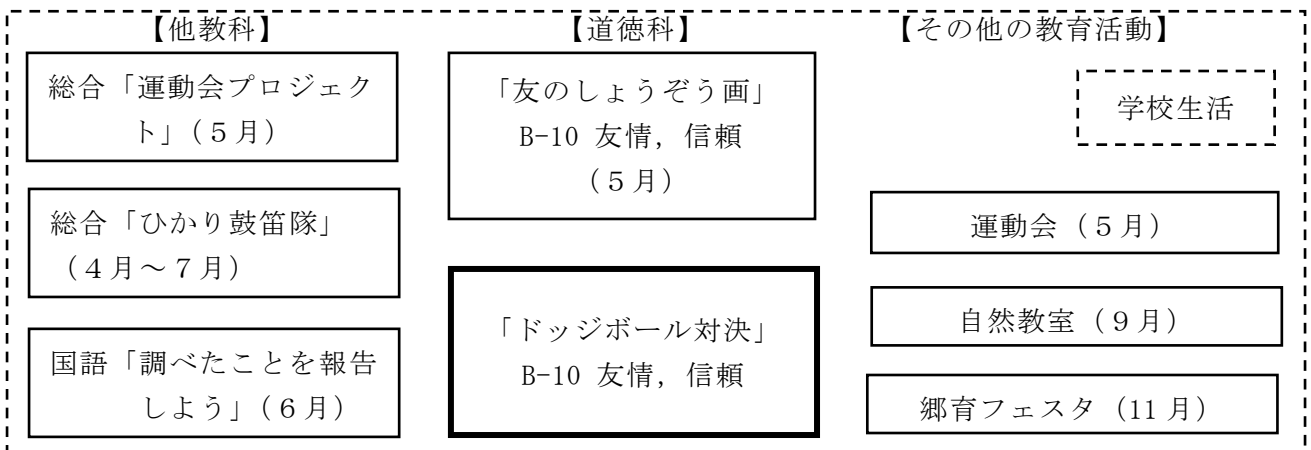
本教材は、主人公・「真（ぼく）」が他のクラスの友人・「都」に互いのクラスの団結力を高めようとドッジボール対決を提案する内容である。対決が決まり、「真（ぼく）」のクラスである5年2組では、作戦が漏れないように“対決まで1組の人とは話さない”ことが決まった。違和感を覚えながらも賛同した「真（ぼく）」と「そんなのおかしくない？」と異を唱える「都」とのやり取りの中で、クラスの団結（集団との友情）と「都」との友情（個の友情）との間で悩む主人公の様子から、友情を深めるにはどんなことが大切なのかを考えることができる教材である。

本学級（男子14名、女子16名）は、今年度、クラス替えを行い、新たな仲間と一緒に5年生の学習や高学年としての仕事に取り組み、高学年としての責任を果たそうと頑張る姿が見られる。これまでの学校生活の中で、思いやりがある、助け合える等、自分たちのクラスのよいところを自覚しつつある。休み時間になると、以前の学級で仲のよかった仲間とも仲良く遊んでいる光景が見られ、学級の垣根を越えて仲良くしている姿が見られる。一方で、自分と親しい仲間との友情を保つためには、時として必要以上に気を遣い、細かいところまで考えられるが、自分にとって親しくない仲間には関心が薄く、配慮のない言動が見られることがあった。また、自分にとって親しい仲間と一緒に行動するとき、その言動に疑問を感じても仲間と不和になることを恐れて言い出せなかったり、自分の気持ちを押し殺してストレスを溜めてしまったりすることがあった。

内容項目「B-10友情，信頼」を扱った前主題「友達のことを心から思うとは」（『友のしょうぞう画』（光村図書））の学習で、子どもは、本当の友達とは、会えなくても心でつながっていることや思いやりをもって接することができる関係と見いだした。しかし、実際の生活では、親しい仲間と一緒にいないと不安な気持ちが大きくなり、必要以上に相手の機嫌をうかがうような関係になっている子どもも多数いる。

このような姿を見せる子どもに、友情は「自分」と「相手」の双方が互いに気持ちよく生活できるように配慮したり、高め合ったりする関係の中で育まれていくことに気付かせたい。また、目的の達成のために誰かとの友情を犠牲にすることや、一方の友情を優先したことで、もう一方の友情が壊れてしまうことは、正しいことなのかを考え、今後の自分の生き方を考えさせたい。

#### (4) 他の教科、領域との関連について



#### (5) 本時のねらい

2つの友情で板挟みになっている主人公の言動やこれまでの自分の経験を基に、友情を深めるために大切なことについて話し合う中で、互いに高め合う関係をつくることで友情が深まることに気づき、これからの生活の中で仲間を大切にし、お互いに認め合ったり、支え合ったりしていこうとする意欲を高める。

#### (6) 本時の展開

	□学習活動	○主な発問 ・予想される児童（生徒）の反応	◇留意点
導入	□「教材」の内容確認・問いをもつ  (13分)	○「そんなのおかしくない？真くんのクラスの団結ってそういうものなの？」という都の言葉が“大きくひびいた”のはなぜか。 ・「真」も実は、おかしいんじゃないかなと思っていたから。 ・「都」のことを怒らせてしまって悪いことをしたなという気持ちになったから。 ・「都」との友情にひびが入ってしまうなと思ったから。	【本時までに行うこと】 ◇事前に主題に関わる道徳アンケートをとる。 ◇教材文「ドッジボール対決」を読む。  ◇付属DVD「あらすじ」で内容を共通理解する。その際に次のことを確認する。 ※真がドッジボール対決を提案した意図 ※「真」が望んだこととのずれ。

		◎友情を深めるには、どのようなことが大切なのか。	◇「真」が「5年2組の仲間」や「都」との友情で板挟みになっている様子を確認する。 ◇道徳アンケート①「友情は大切か?」「教材文を読んだ時の感想」の結果を提示する。
展開	□問いを解決する (25分)	○「真」と「5年2組の仲間」、「都」との関係やこれまでの経験を基に友情を深めるために心がけることを考えよう。 【教材から】 ・自分だけ良くても相手が嫌な思いをすると友情は深まらない。 ・どちらかの友情をとるとどちらかの友情が犠牲になるのは、よくないと思う。 【自分の経験から】 ・自然教室に行ってから友情がもっと深まったと思う。 ・係活動でイベントをやるとみんなが仲良くなれたので一緒にイベントを考えたり、楽しい経験をしたりすると友情が深まりそう。  ↓ ・お互いに協力し合うことが大切 ・お互いのことを信頼していることが大切 ・お互いのことを考えて思いやることが大切 ・一緒に目標に向かって頑張ることが大切	◇道徳アンケート②「これまでの生活で友達との友情が深まったなと思えたことは?」の結果を提示する。  ◇自分の経験と教材の登場人物の立場をもち出して、どのようにすれば友情が深まっていくのかを考えさせる。
終末	□これからの生き方を考える (7分)	○今日の学習をこれからの生活にどのように生かしていくか考えよう。 ・わたしは、これからの生活の中で、友達が困っていたらもっと声をかけて、助けてあげたいと思う。 ・ぼくは、友達とこれからもいろんな学習を頑張っていきたいし、協力して行事やクラスイベントを成功させたい。	◇道徳ワークシートの「これからの自分」の欄に記入させる。

### (7) 本時の評価

#### ① 評価の視点

- ・一面的な見方から多面的、多角的な見方へと発展させていたか。
- ・道徳的価値を自分自身とのかかわりの中で、深めていたか。

#### ② 評価の方法

- ・ワークシートへの記述（◎を設定した後の自分の考えの記述内容と「これからの自分」の欄への記述内容）

## (8) 板書計画

◎友情を深めるには、どのようなことが大切なのか。

場面絵  
クラスのみんなの表情

場面絵  
主人公

場面絵  
都

場面絵  
主人公の表情

ドッジボール対決

なぜ「都」の言葉がひびいたのか。  
 ・「真」も実は、おかしいんじゃないかなと思っていたから。  
 ・「都」のことを怒らせてしまった悪いことをしたなという気持ちになっただけから。  
 ・「都」との友情にひびが入ってしまったかなと思っただけから。

対決まで1組の人とは話さない

そんなのおかしい?

<3者の関係>  
 ・自分だけ良くても相手が嫌な思いをすると友情は深まらない。  
 ・どちらかの友情をとるとどちらかの友情が犠牲になるのはよくない。  
 ・おかしいと思っているのに言えない関係

<経験>  
 自然教室 協力 目標  
 助け合う 信頼  
 係活動 みんなで楽しむ 思いやり

・お互いに協力し合うことが大切  
 ・お互いのことを信頼していることが大切  
 ・お互いのことを考えて思いやることが大切  
 ・一緒に目標に向かって頑張ることが大切

これからの自分は?

## 4 実践を振り返って

### (1) 授業の実際

#### 【事前の取組】

本時の前に教材文を読ませ、感想を書かせた。また、本主題にかかわるアンケートを行い、結果をまとめておいた。

#### 【導入】

教科書付属DVDの「あらすじ」を使用し、登場人物の関係や問題点を整理した。教材文は、“作戦が漏れないようにドッジボール大会まで他のクラスの友達とは話さない”という主人公のクラスの団結の仕方について、主人公の友人が「そんなのおかしい?真くんのクラスの団結って、そういうものなの?」と伝え、その言葉が主人公の心に大きく響いた…という場面で終わる。

教師が「なぜ、響いたと思うか。」と問うと、子どもから「自分の気持ちを言えなかったけれど、真もおかしいと思っていたから。」「真も賛成しちゃったけどおかしいと思っていたから。」等の発言があった。“主人公のクラスの団結の仕方はおかしい”という意見に子どもたちが共感した後、教材文を読んだ感想(図1)を提示した。その後、アンケート①「友情の大切さ」(図2)も提示した。このことにより、教材文の主人公のクラスの団結や友情はおかしいということと、友情は大切だと考えている「自分」を意識させた。その後、登場人物の人間関係等について、場面絵を使いながら黒板に整理した。そして、友情は大切だと考えている子どもたちに「このままで友情は深まるか」と問うと、「だめ」「深まらない」という反応が返ってき

### ・これはおかしい!

- ・これは団結ではない。
- ・やりすぎ
- ・1組と2組の仲は大丈夫?
- ・自分の意見しか言ってない
- ・その後どうなったのか知りたい

図1: 教材文を読んだ感想



図2: アンケート①友情の大切さ

た。「どうすれば深まるかな？」と問うと、首を傾げたり、何か言いたそうだが、言葉にできなかつたりする姿が見られた。そこで本時の学習課題「◎友情を深めるにはどのようなことが大切なのか。」を設定した。

### 【展開】

学習課題「◎友情を深めるにはどのようなことが大切なのか。」について自分の考えをもつ場を設定し、ワークシートに考えを書かせていると、「分からない」とつぶやく子どもや考え込んでいる子どもが多数いた。そこで、事前に用意していた事前アンケート結果②（図3）を提示することとした。行事ばかりではなく、休み時間や授業中でも友情は深まっていると感じている人がいることを自覚させた上で、本時の学習課題について考えをもつ時間をとった。

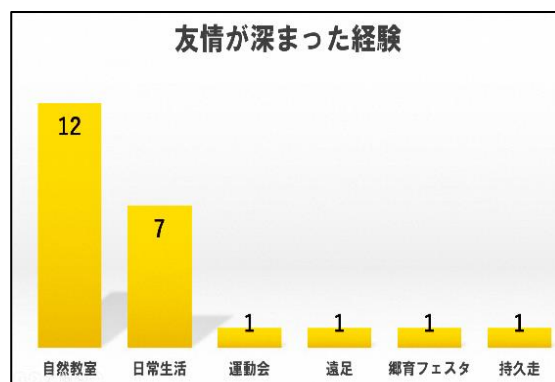


図3：アンケート②友情が深まった経験

全体的話し合いの場面になり、学習課題（◎）に対する考えとして以下の発言があった。

- ・ 仲間のことを思い合うことが大切。
- ・ 日頃から助け合うこと。
- ・ 仲間が困っていたらフォローしてあげることや手伝ってあげること。
- ・ もっと相手の気持ちを考えたり、相手と話して楽しんだりすることや助け合うこと。
- ・ 友達が嫌だと思ふかなとか、嬉しいと思ふかなということを考えて行動したり、発言したりすること。
- ・ 話し合ったり、困っていたら助けたりすること。

「仲間が」や「相手と」といった自分と相手との関係に着目した内容が出てきたので教材の内容に戻り、主人公たちは、相手の気持ちを考えていなかったところや話し合いがうまくできていないところがあったことを確認した。すると、続けて以下の発言があった。

- ・ はっきりと反対しなかった真も悪い。
- ・ 友情とか友達って自分の気持ちを言えたり、聞けたりする関係だと思ふので、1組と話さないということにちゃんと反対しなかった「真」と、真の意見を怒って聞かない真のクラスの「2組」の友情も違う。

このように「自分の意見をきちんと言うこと」「相手の意見をきちんと聞くこと」が友情を深める上で大切だという考えをもった子どももいた。板書の中から共通点を見付けさせると、“「～合う」”という言葉に着目した子どもをきっかけに「『合う』がつくと、自分がしてもらうだけではなく、自分もしてあげる感じがする」等、友情を深める上で「自分だけ」、「相手だけ」でなく、自分と相手とのバランスが大切だという考えに至った。これにより、本時のねらいである“互いに高め合う関係をつくることで友情が深まること”に気付いたと判断し、終末へと向かった。

### 【終末】

ワークシートに「これからの自分」について考える場を設定した。すると、次のような記述があった。

## ワークシート「これからの自分」の記述

- ・もっと相手の気持ちを考えて発言したり、「相手はどういう考えかな」「どうなんだろう」などを考えたりするのもいいと思う。これからはもっと相手の気持ちを考えて発言する。
- ・仲を深めたり、友情を深めたりするために教え合ったり、助け合ったりの「〇〇合う」がめっちゃ大切なんだと思いました。「〇〇合う」を大切にしたい！！
- ・相手の嫌がることはしない！！言い方はしんちょうに言う！友達などと絆を深め合う！〇〇合うという言葉大切にしたい！
- ・仲のいい友達、または、他のクラスの子が困っていたら自分から声をかけて話を聞いてあげる。
- ・仲がいい友達でも相手の気持ちを考える。
- ・どれだけ仲が良くても相手が嫌がることは言わない。
- ・〇〇し合うって自分と相手との友情がないと無理だから、みんなが言っているように相手が嬉しいと思うことを言おうと思ったけど、自分と相手を楽しむことがどんなことより大切だと思うので、気を使い過ぎないで気楽に話していれば友達になれると思う。（ほめたりばかりじゃなくて自分の本当のことを言えるようになりたい。）
- ・これからはたとえ友達でもだめだと思ったことは、ちゃんと反対して自分の意見も言おうと思った。
- ・これからは日常生活の時でも友達と仲良くしようと思った。今回の話で話し合いをする時、すぐ決めないで本当にみんながいいか話し合う。
- ・みんなと勉強を「教え合い」する。
- ・みんなとアイデアを出すことを大切にしたい。
- ・「ドッジボール対決」の2組みたいになったら、反対できるようになりたいです。助け合って友情を深めたいです。

他

自分が大切にしたいことや学んだことについて全員が自分の考えを記述することができた。特に具体的な行動の仕方を記述できた子どもは、これからの生き方について考えを深めることができたと言える。

## (2) 研究テーマに関わって

本研究では、子どもの思考が「自分（経験やこれまでの自分の道徳的諸価値）」と「教材」を行き来することによって、深い学びが生まれると考え、以下の手立てを講じて研究を進めてきた。

### ① 主題に関わる事前アンケート

本主題の教材文を読ませる前に事前アンケートを実施した。このことにより、友情や団結について考えるという“フィルター”がかかっていない分、子ども一人一人の道徳的諸価値をありのままに表出させることができたと考えた。学習課題「◎友情を深めるにはどのようなことが大切なのか」について考えをもととした際、行き詰まった子どもにとって、事前アンケート②（図3）が“本音の資料”だったからこそ、自分の経験を想起できたり、自分や仲間の考え方の相違点に着目しやすくなったりしたのではないかと思う。

### ② 教材の内容把握、補助資料の提示のためのICT活用

教材付属の「あらすじ」機能を電子黒板に映し出し、物語の流れを確認することによって、問題点を共有できた。また、事前アンケートの結果をグラフにして示すことによって、着目させたい情報を際立たせることができた。特に事前アンケート②（図3）で“友

情が深まったのは行事だけでなく、普段の何気ない場面でも十分深まっていると感じている”ということを想起させた後、多くの子どもが学習課題に対する考えを自力でもつことができた。自分の経験を学習と関わらせることについて有効に働いたと言える。

### ③今後の自分の生き方を表す「これからの自分」の記述

本時の終末で、子どもに自分のこれからの生き方を問うた。教材と自分の経験を往還させながら、学んだことを表出させる場面として設定した。自分の考えを具体的な行動と絡めて考えることができたのは、29人中10人であった。また、行動レベルまでは考えをもてなくとも、議論することで見いだした大切なことを全員が記述した。今後も子どもが“自分はこれからこうしたい”という思いをもつことができるように授業の終末を創っていきたい。

### ④板書の構造



図4：本時板書

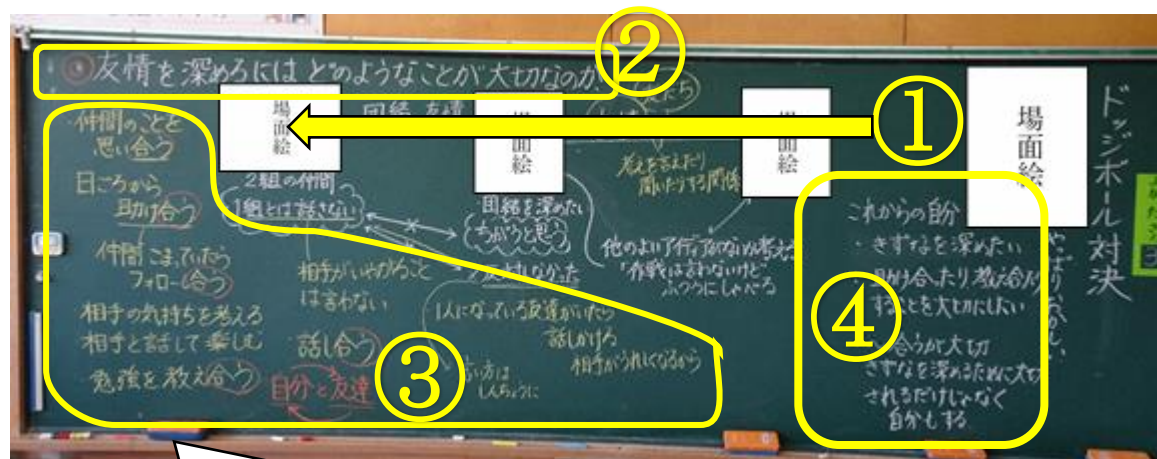


図5：本時板書の構造

#### 本時の板書の実際（図4・図5） ※①～④の順に進行

- ①場面絵を掲示しながらストーリーを整理  
…縦書きの教科書に合わせて、黒板向かって右から左へ展開。
- ②学習課題（◎）を設定  
…子どものワークシートが横書きのため、◎と考えは横書き。
- ③学習課題に対する子どもの考え  
…議論して練り上げていく過程を重視しているため色チョークを使って目立たせた。
- ④「これからの自分」について子どもたちの発言  
…計画では黒板中央下に書きたかったが③が広範囲に渡ったため、この場所に。



### (3) 今後の課題

#### ① 学習課題の設定について

本時のように学習課題（◎）をテーマ的なものに設定すると、思考が教材の内容から離れてしまい、その結果、抽象的な考えしかもてない子どもがいる。

学習課題（◎）の設定後と「自分のこれから」を考えさせる終末では、書く時間だけでなく、発言したり、仲間の発言を聞いたりする時間を確保する。また、小グループでの交流と全体での交流を取り入れながら、自分の考えが具体的にもてるようにしたい。

#### ② 教材と自分を往還する

本研究では、子どもの思考が教材と自分を行き来することで、より具体的な納得解を得る姿を深い学びの姿と考え、授業を実践してきた。

本研究の授業スタイル（図5）のように「教材」を軸に語っていた子ども（主に高学年）が、授業が進むにつれて、「自分」を軸として物事を語るようになるように

したいと考えている。そのために、発問の仕方や、補助資料の提示等、子どもの深い学びにつながる有効な方法をさらに検討していきたい。



図5：本研究の授業スタイル

### 参考、引用

- ・ 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7 文部科学省
- ・ 道徳 5 きみがいちばんひかるとき R2.2.20 光村図書
- ・ 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） H28.12.21 中央教育審議会